



防災士よこはま

日本防災士会横浜支部通信

第25号 NO. 025

日本防災士会横浜支部
支部長 今井 淳
事務局長 早乙女善彦

発行日 2018年1月17日

神奈川県湯河原町役場「防災講演会」実施報告

湯河原町役場において「災害時の自助・共助について」と題して、防災講演会を実施しましたので、ご報告いたします。

- 日時 平成30年1月14日(日)13:00~15:00
- 場所 湯河原町役場3階会議室(神奈川県足柄下郡湯柄輪町中央2-2-1)
- 参加者 富田町長、防災担当関係者4名、湯河原町の皆さん:40名
- 講師 日本防災士会横浜支部(支部長 今井淳、幹事 乾英昭)

講演会概要

富田町長あいさつ、今井支部長あいさつの後、乾講師から「災害時の自助・共助について」パワーポイントにより、1部「神奈川県における状況」2部「自助」「共助」について1時間45分の講演を実施、その後に質問の時間を設け、参加者からの質問を受けました。

特に講師からは災害が起きるのは明日かもしれないという意識をもって準備することが大切であることが強調されました。

災害時には個人・家族単位で自力で避難する「自助」、近隣住民など地域で助け合い、支え合う「共助」による地域防災力の強化が必要。地域の防災計画の確認や自助のための平常時の行動、地震が起きたときの具体的な行動について紹介。

また災害発生後、支援物資の配布などで町民が協力する必要であることから、住民が普段からあいさつを交わしたり、密接なつながりをもつことも大切である。といった説明を行ないました。高齢者の避難を考えるときにネックになるのがプライバシーの問題で、何処にどういう人が居るのか確認が難しい、また外国人に対する言葉の問題もあるなどの質問があり、講師より分かり易く丁寧な説明があり講演会を無事に終了いたしました。

この講演会の模様は神奈川新聞朝刊(1月15日)に掲載されました。



自助や共助のための平常時から
の備えなどについて説明する
乾英昭さん 湯河原町役場

同町の建設
業浦谷慎一さ
ん(80)は「近
隣の付き合い
が大切だと
わかった。自
助のための防

が密接なつながりを持つこ
との大切さについて説明し
た。(岩崎 千晶)

湯河原 自主防災意識を高めよう
と、NPO法人「日本防災
士会」横浜支部の乾英昭さ
んが14日、湯河原町役場
で講演した。乾さんは「災害
が起きるのはあすかもしれ
ない」という意識を持つこと
が大切」と訴え、地域の防
災計画の確認や家族会議
開催など自助のための平
常時の行動、地震が起きた
ときの具体的な行動につ
いて紹介。災害発生後、
支援物資の配布などで町
民が協力する必要がある
ことから、住民が普段から
あいさつを交わしたり、非
常時の避難ルートを地域
で確認し、これを取り組ま
ないと話していた。

災害への意識 日頃から 自助・共助テーマに講演会

報告者:横浜支部長 今井淳